



証券コード：3150



2025年3月期 第3四半期 決算短信補足資料

株式会社グリムス（証券コード：3150）

2025年2月7日

<https://www.gremz.co.jp/>

2025年3月期 第3四半期 決算概要

連結業績ハイライト（前年同期比）



単位：百万円	2024/3期3Q累計（実績）		2025/3期3Q累計（実績）		前年同期比	
	実績	利益率（%）	実績	利益率（%）	増減額	増減率（%）
売上高	23,750		24,859		+1,109	+4.7%
営業利益	4,725	19.9%	5,045	20.3%	+320	+6.8%
経常利益	4,764	20.1%	5,160	20.8%	+395	+8.3%
親会社株主帰属 四半期純利益	3,181	13.4%	3,492	14.1%	+311	+9.8%

- 売上高は、ECS事業が前年同期比109.2%、小売電気事業が前年同期比107.8%と伸長し、連結売上高は1,109百万円増加（+4.7%）
- 営業利益は、ECS事業において事業用太陽光発電システムの販売拡大、小売電気事業において販売量の増加、販売単価の上昇及び調達価格の抑制、といった増益要因により連結営業利益は320百万円の増加（+6.8%）
（小売電気事業の増益要因についてはP8で説明）
- 連結営業利益の進捗率77.6%

連結業績ハイライト（前年同期比）



	2024/3期3Q累計 (実績)		2025/3期3Q累計 (実績)		前年同期比	
	金額	対売上高	金額	対売上高	増減額	増減率
売上高	23,750	100.0%	24,859	100.0%	+1,109	4.7%
ECS事業	6,725	28.3%	7,345	29.5%	+619	9.2%
SHP事業	3,736	15.7%	3,195	12.9%	▲540	▲14.5%
小売電気事業	13,288	56.0%	14,318	57.6%	+1,030	7.8%
売上総利益	7,627	32.1%	8,369	33.7%	+742	9.7%
ECS事業	4,040	60.1%	4,485	61.1%	+445	11.0%
SHP事業	1,571	42.1%	1,266	39.6%	▲304	▲19.4%
小売電気事業	2,015	15.2%	2,616	18.3%	+601	29.9%
営業利益	4,725	19.9%	5,045	20.3%	+320	6.8%
ECS事業	2,915	43.4%	3,151	42.9%	+235	8.1%
SHP事業	626	16.8%	350	11.0%	▲276	▲44.1%
小売電気事業	1,656	12.5%	2,154	15.0%	+498	30.1%
管理共通費	▲474	-	▲611	-	▲137	-
経常利益	4,764	20.1%	5,160	20.8%	+395	8.3%
四半期純利益	3,181	13.4%	3,492	14.1%	+311	9.8%

※ECS事業（エネルギーコストソリューション事業）：(株)GRコンサルティング、(株)グリムスエナジー、(株)グリムスパワー、(株)グリムスソーラー

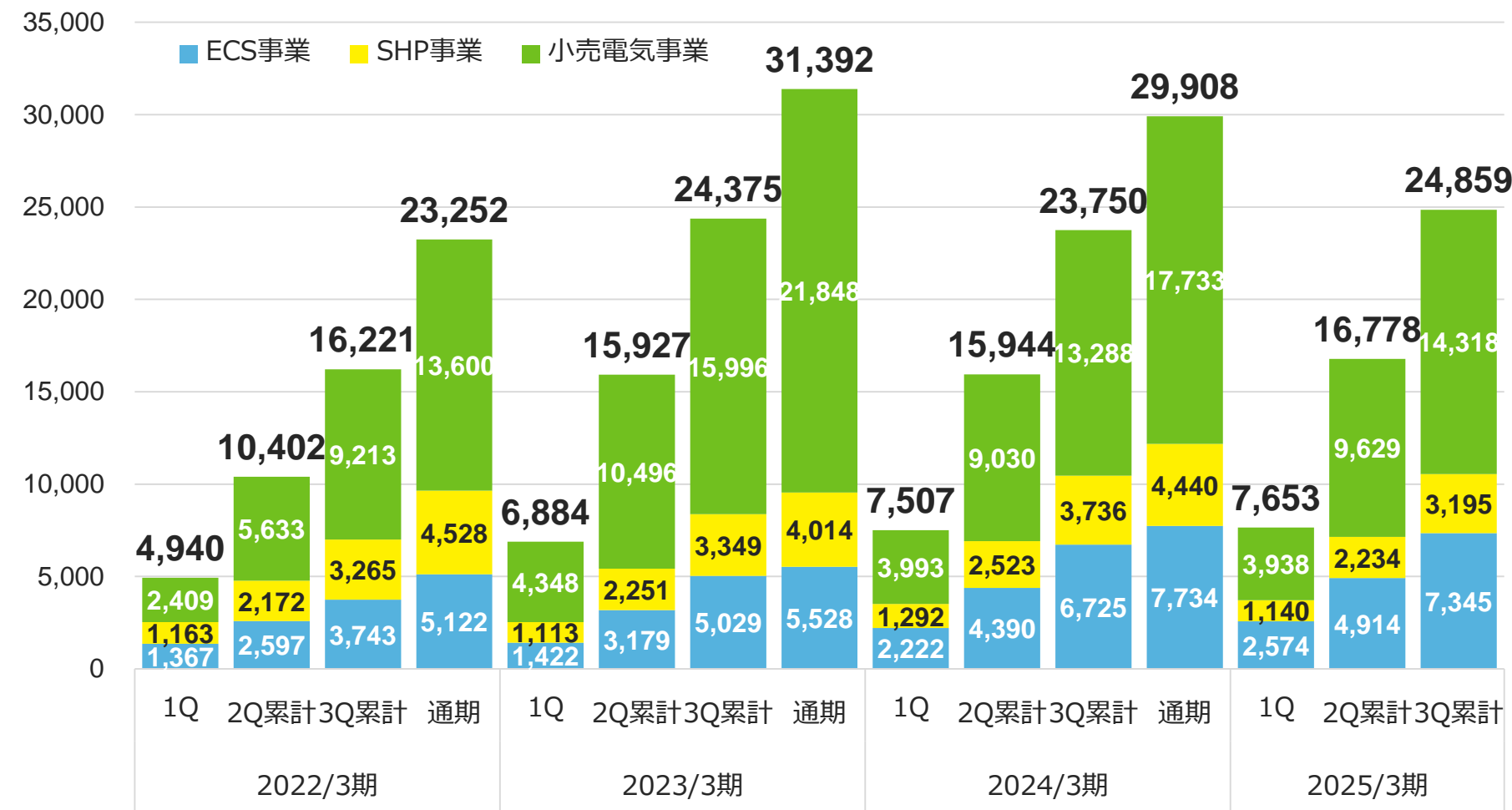
※SHP事業（スマートハウスプロジェクト事業）：(株)グリムスソーラー

※小売電気事業：(株)グリムスパワー

Copyright© gremz, Inc All Rights Reserved

売上高（四半期累計）推移

(百万円)



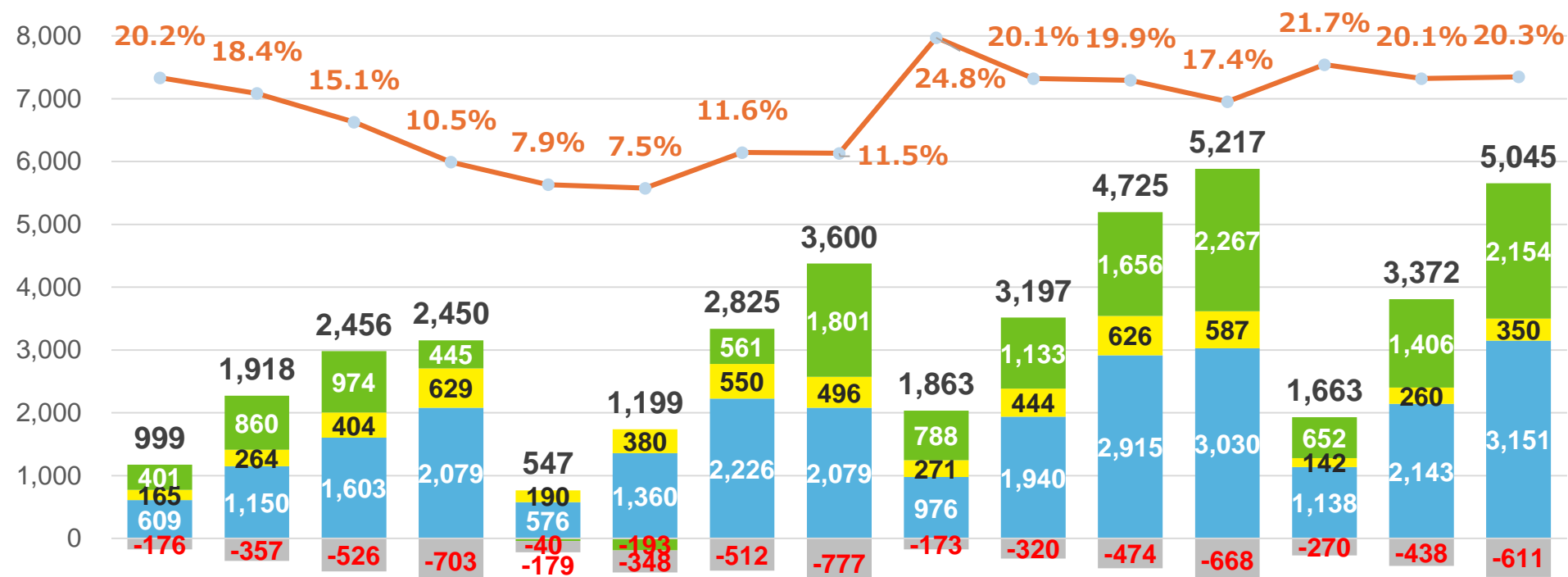
2025/3期3Q累計
売上高 24,859百万円
(前年同期比 +4.7%)

連結業績ハイライト（営業利益）

過去最高の3Q累計営業利益



営業利益（四半期累計）推移



2025/3期3Q累計

営業利益 5,045百万円
(前年同期比 +6.8%)

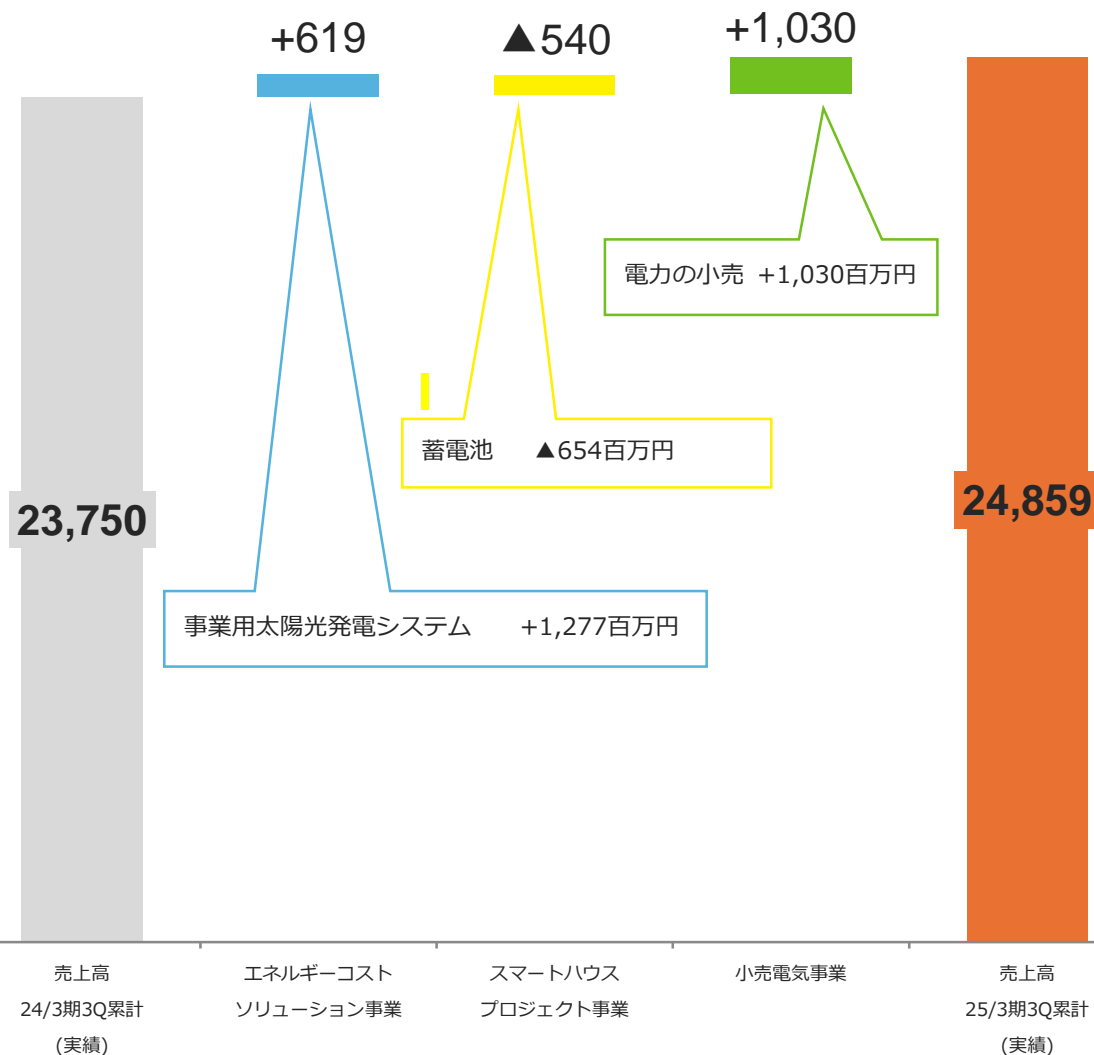
■ ECS事業 ■ SHP事業 ■ 小売電気事業 ■ 管理共通費 ● 営業利益率

セグメント別業績ハイライト (売上高・営業利益)



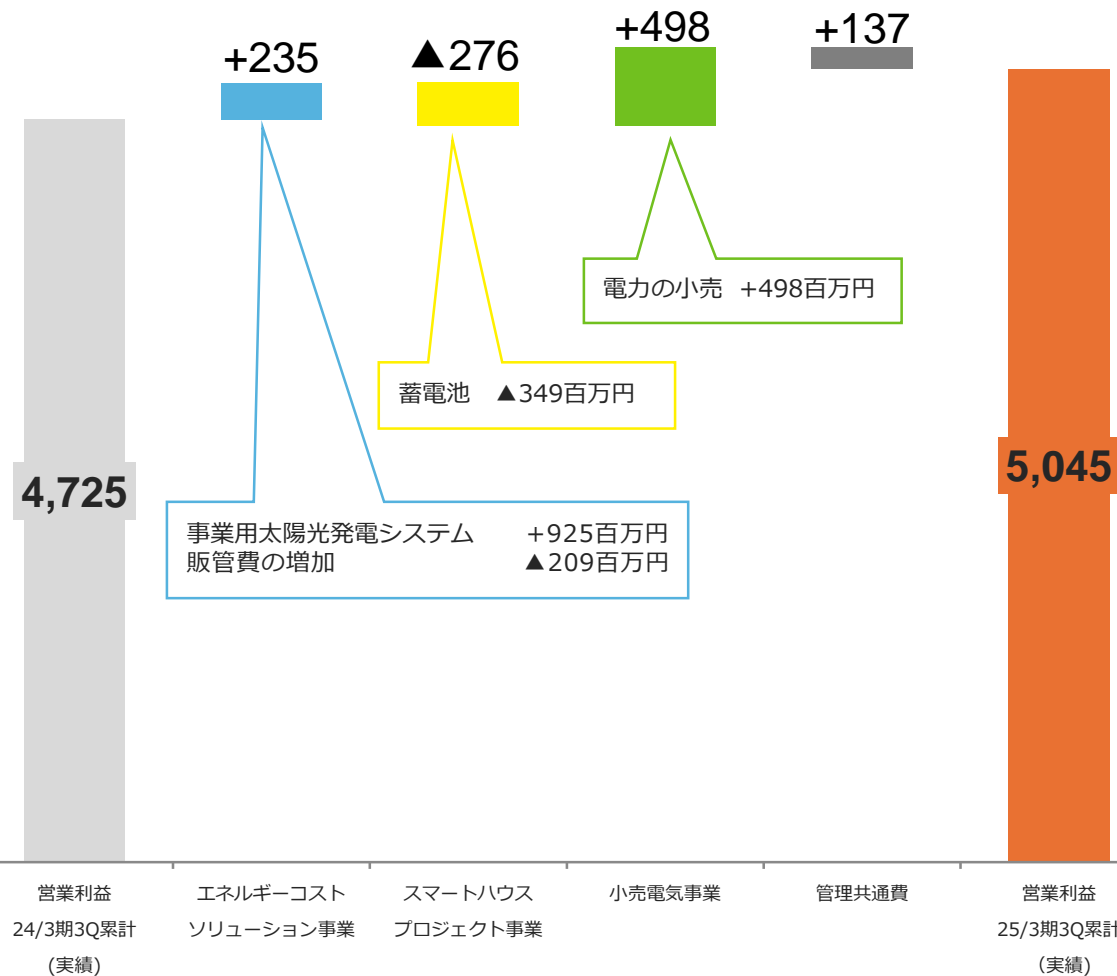
(百万円)

売上高の増減要因 (前年同期比)



(百万円)

営業利益の増減要因 (前年同期比)



小売電気事業の増益要因

■ 前期比（3Q累計）の増益要因

前期粗利2,015百万円と当期粗利2,616百万円の増益分601百万円のうち、下記①+②+③=565百万円が主な要因となった。

① 販売量の増加による粗利増加

	3Q販売量 (MWh)	3Q累計販売量 (MWh)	増加影響 (百万円)
当期	144,598	450,864	+336
前期	138,355	436,275	

② 市況変動の差引による粗利増加 (価格：円/kWh、その他の単位：百万円)

燃調価格の下落により売上が減少したが、原価の減少が上回った。

	燃調価格	市場価格	相対価格	売上	原価	差引
当期	3.77	13.74	13.29	13,251	10,566	2,685
前期	5.35	11.97	22.90	13,288	11,273	2,015
増加影響	▲1.58	1.77	▲9.61	▲37	▲707	+670

③ 容量市場拠出金の負担開始 (単位：百万円)

当期から容量市場(※)の負担が発生。一部は顧客転嫁せずに自己負担しているため、粗利の減少影響となった。

容量供出金顧客転嫁額	容量拠出金当社負担額	減少影響
+783	▲1,224	▲441

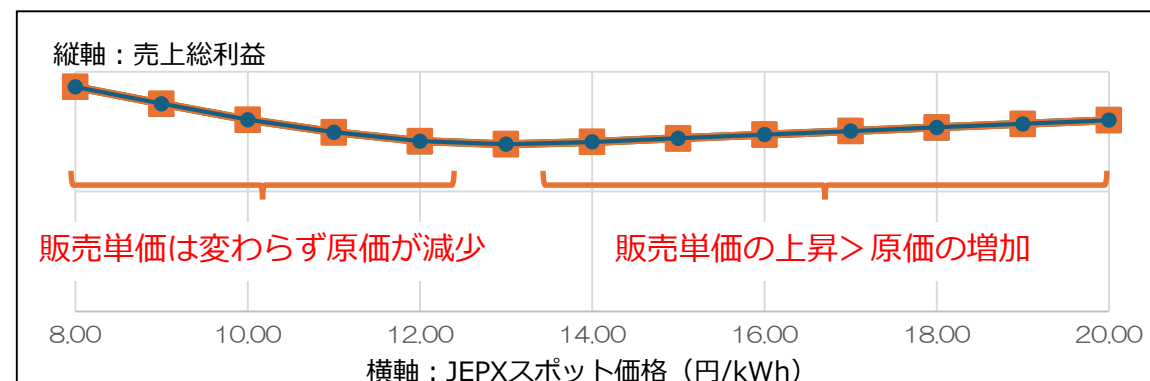
※ 発電事業者に安定供給のために必要な電源への投資を促し、小売電気事業者等に負担を求める制度

■ 電力市場価格の変化が利益に与える影響について

低压販売は市場価格が一定金額（平均13円/kWh程度）を上回ると顧客転嫁が始まる「独自燃調費制度」を全顧客へ採用している。

当期は、当社が顧客転嫁せずリスクを負っている割合よりも多くの割合を相対電源と先物でリスクヘッジできているため、市場価格が高騰しても「売上増加>原価増加」となり、下落しても「売上減少<原価減少」となる状況。

当期3Q累計期間の市場価格平均は13.74円であり、独自燃調制度により販売単価は上昇したが、リスクヘッジの効果により原価の増加は限定的だった。



貸借対照表 (B/S)

自己資本比率は前期末59.7% → 今期3Q末64.0% 良好な財務基盤を維持

(単位：百万円)	2024/3/末	2024/12/末	増減額	主な増減要因	
流動資産	16,913	18,824	+1,911	現金及び預金 売掛金	+1,235百万円 +526百万円
固定資産	4,698	4,953	+254	機械及び装置 建設仮勘定 投資有価証券 繰延税金資産 敷金及び保証金	▲52百万円 +118百万円 +100百万円 ▲88百万円 +221百万円
資産合計	21,612	23,777	+2,165		
流動負債	5,810	5,918	+108	買掛金 1年内返済予定の長期借入金 未払金 未払法人税等 未払消費税等 賞与引当金	+119百万円 +95百万円 ▲250百万円 ▲300百万円 +216百万円 +262百万円
固定負債	2,810	2,551	▲258	長期借入金	▲248百万円
負債合計	8,620	8,470	▲150		
純資産合計	12,991	15,307	+2,315	四半期包括利益 剰余金の配当	+3,511百万円 ▲1,201百万円
負債・純資産合計	21,612	23,777	+2,165		

2025年3月期 業績予想及び配当予想

■ ECS事業

今期業績拡大を牽引。主として中小企業の工場等の屋根に太陽光発電システムを設置し、創った電気を工場で利用（自家消費）していただくことで電気料金を削減いたします。中小企業をメインターゲットとすることで他社との差別化を図ります。自家消費しきれない余剰電力の有効活用のため、蓄電池とのセット販売も増加していく計画です。

■ SHP事業

FIT制度が満了した家庭向けに蓄電池を導入する大きな潜在需要が存在しています。当面は安定的な業績推移を図る方針です。

■ 小売電気事業

前期まではリスクヘッジを可能とするビジネスモデルの確立を徹底してきました。逆ザヤリスクを回避して安定収益を見込めるビジネスモデルが確立できたことに加え、先物価格が前期初より安定していることから、今期は契約口数の増加による成長（期初5万8,000口→期末6万3,000口）を図ります。

■ 全社業績

積極的な人材投資を図り、ECS事業の拡大と小売電気事業の着実な成長により、今期も過去最高営業利益の更新を見込みます。3Q累計営業利益の進捗率は77.6%。

2025年3月期業績予想



(単位：百万円)	2025/3期3Q累計 (実績)		2025/3期業績予想 (2024年5月15日発表)		3Q累計 進捗率	2024/3期業績 (実績)	
	金額	対売上高	金額	対売上高		金額	対売上高
売上高	24,859	100.0%	34,000	100.0%	73.1%	29,908	100.0%
ECS事業	7,345	29.5%	10,906	32.1%	67.4%	7,734	25.9%
SHP事業	3,195	12.9%	4,310	12.7%	74.1%	4,440	14.8%
小売電気事業	14,318	57.6%	18,783	55.2%	76.2%	17,733	59.3%
売上総利益	8,369	33.7%	11,200	32.9%	74.7%	9,257	31.0%
ECS事業	4,485	61.1%	6,654	61.0%	67.4%	4,645	60.1%
SHP事業	1,266	39.6%	1,803	41.8%	70.3%	1,845	41.6%
小売電気事業	2,616	18.3%	2,742	14.6%	95.4%	2,766	15.6%
営業利益	5,045	20.3%	6,500	19.1%	77.6%	5,217	17.4%
ECS事業	3,151	42.9%	4,575	42.0%	68.9%	3,030	39.2%
SHP事業	350	11.0%	575	13.4%	60.9%	587	13.2%
小売電気事業	2,154	15.0%	2,082	11.1%	103.5%	2,267	12.8%
管理共通費	▲611	-	▲733	-		▲668	-
経常利益	5,160	20.8%	6,570	19.3%	78.5%	5,268	17.6%
当期(四半期)純利益	3,492	14.1%	4,320	12.7%	80.9%	3,540	11.8%

※ECS事業（エネルギーコストソリューション事業）：(株)GRコンサルティング、(株)グリムスエナジー、(株)グリムスパワー、(株)グリムスソーラー

※SHP事業（スマートハウスプロジェクト事業）：(株)グリムスソーラー

※小売電気事業：(株)グリムスパワー

Copyright© gremz, Inc All Rights Reserved

事業者向け

電気料金削減コンサルティング
及び各種省エネ設備の販売

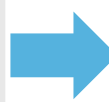
事業者向け

事業用太陽光発電システム、
IoT機器及び
各種省エネ設備の販売

セグメント営業利益

30億円

2024年3月期実績



セグメント営業利益

45億円

2025年3月期計画

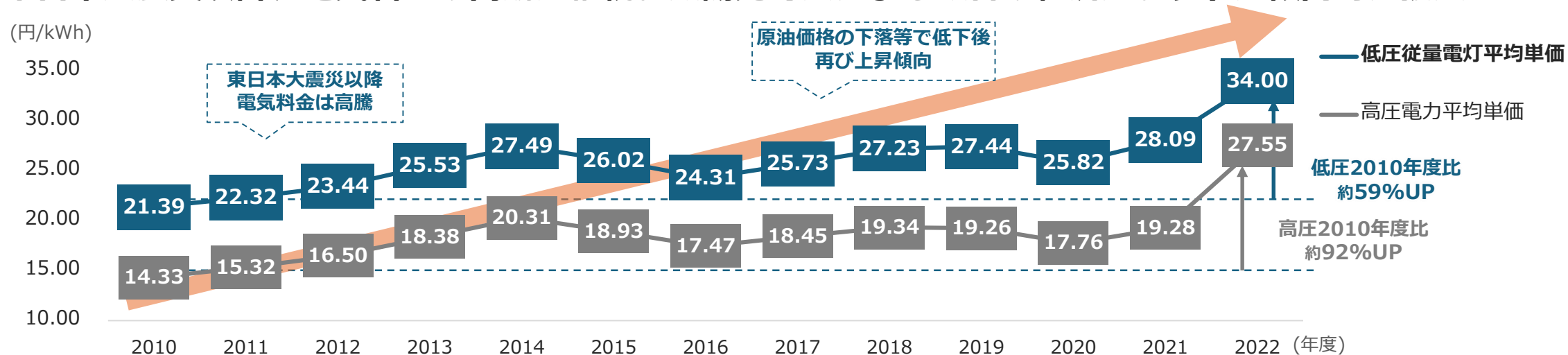
運用・設備・調達改善のトータルソリューションを提供

運用改善	設備改善
<p>電気の使用方法や契約内容を見直しによる 電力基本料金の削減</p>	<p>省エネ効果の高い設備の変更による 電力使用料金の削減</p>
<p>IoT機器 IoTセンサーにより 電力消費量を遠隔監視</p> 	<p>事業用太陽光発電システム 工場の屋根などに太陽光発電システムを 設置し、創った電気を利用することで 電気料金を削減</p> 
<p>電子ブレーカー 契約の見直しとともに 導入することで、機械設備の 安定稼働と電気料金の削減</p> 	<p>LED照明 消費電力を抑え、 製品寿命は蛍光灯の約4倍</p>  <p>業務用エアコン / トランス / 各種省エネ設備</p>

リソースを集中

当社ECS事業が拡大する背景

東日本大震災以降、電気料金の高騰が継続。太陽光導入による顧客の経済メリットが傾向的に拡大



■ 当社のターゲットである低圧顧客の電気料金

東京電力エナジーパートナー(株)の従量電灯B・Cの場合 (2024年5月現在)

		単位	単価(税込)
基本料金		kVA	311.75円
電力量料金	~120kWh	kWh	29.80円
	120~300kWh	kWh	36.40円
	300kWh~	kWh	40.49円
燃料調整額		kWh	月毎に変動
再エネ賦課金		kWh	3.49円

■ 他社がターゲットにしている高圧顧客の電気料金

東京電力エナジーパートナー(株)の高圧電力Aの場合 (2024年5月現在)

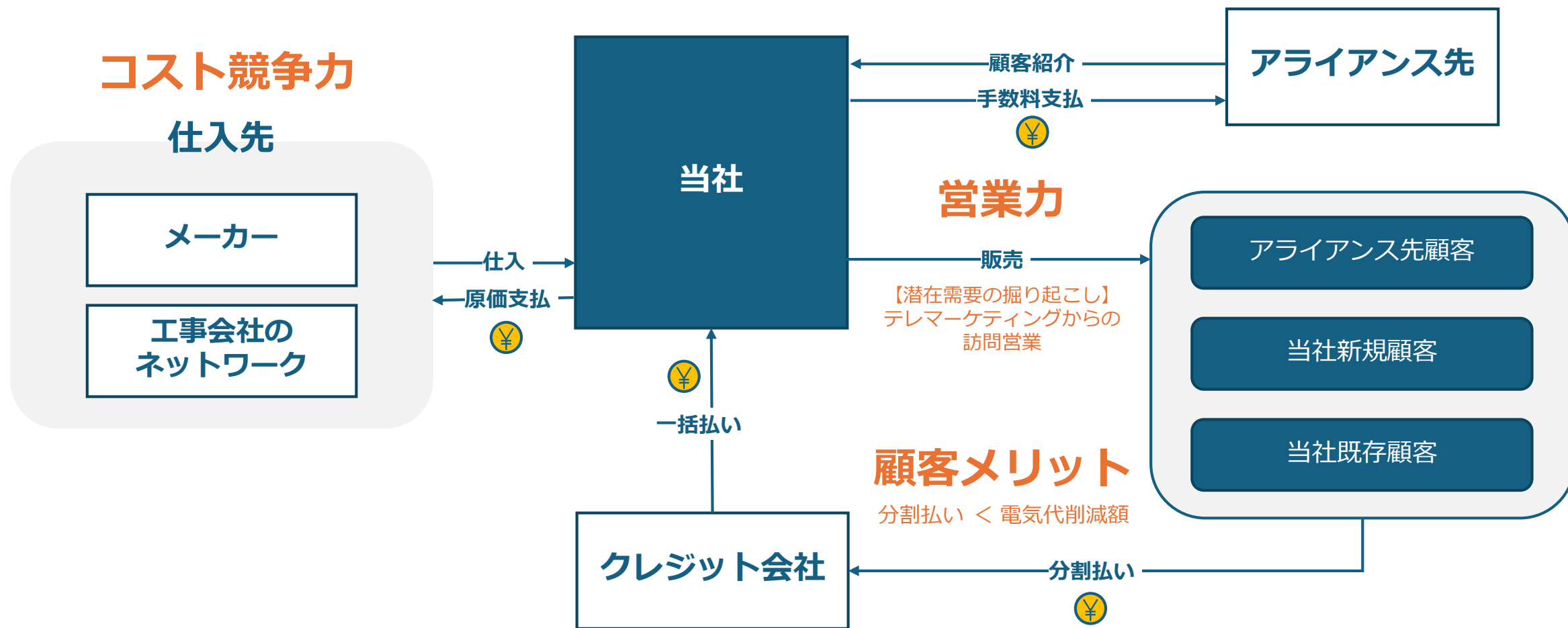
		単位	単価(税込)
基本料金		kVA	1,390.87円
電力量料金	夏季	kWh	20.41円
	その他季	kWh	19.28円
燃料調整額		kWh	月毎に変動
再エネ賦課金		kWh	3.49円



太陽光発電システムを導入することで、枠内の単価で電気を購入する代わりに、10円台前半/kWhで電気を創ることができる。当社のターゲットは低圧顧客であるため、顧客の経済メリットは大きく、顧客満足度は高いものとする。

事業用太陽光の収益構造

機器調達と工事発注の一括施工管理、独自営業に加えアライアンス先からの顧客紹介も利用した営業力、クレジット会社を活用したファイナンス提案などにより、顧客満足度の高いビジネスモデルを確立



小売電気事業の安定ストック化

- 低圧はフェーズ1からフェーズ3のリスクヘッジ策を重ねて実施済み。高圧は市場連動型に特化。
- 今期以降は契約口数の増加による安定成長を目指す

電圧種別	リスクヘッジ策		損益分岐点となる電源調達価格
低圧	フェーズ1	基本料金の割合が高く、販売単価が比較的高い顧客層（24年3月期の負荷率※ 平均9.0%）を中心に獲得	約17.5円/kWh (独自燃調なしの場合)
	フェーズ2	独自燃調（卸電力取引市場からの調達コストの一部を電気代に反映する仕組み）を全顧客へ導入済み	約40円/kWh (独自燃調効果 約22.5円/kWh)
	フェーズ3	独自燃調でカバーできないリスクポジション分（低圧需要の約30%）を相対電源でカバー	損益分岐点は存在しない (逆ザヤリスクを回避)
高圧	市場連動型（卸電力取引市場からの調達コストを完全に電気代に反映する仕組み）に特化		損益分岐点は存在しない (逆ザヤリスクを回避)

※ 負荷率 : 年間消費電力量【kWh】÷（契約電力【kW】×24時間×365日）×100

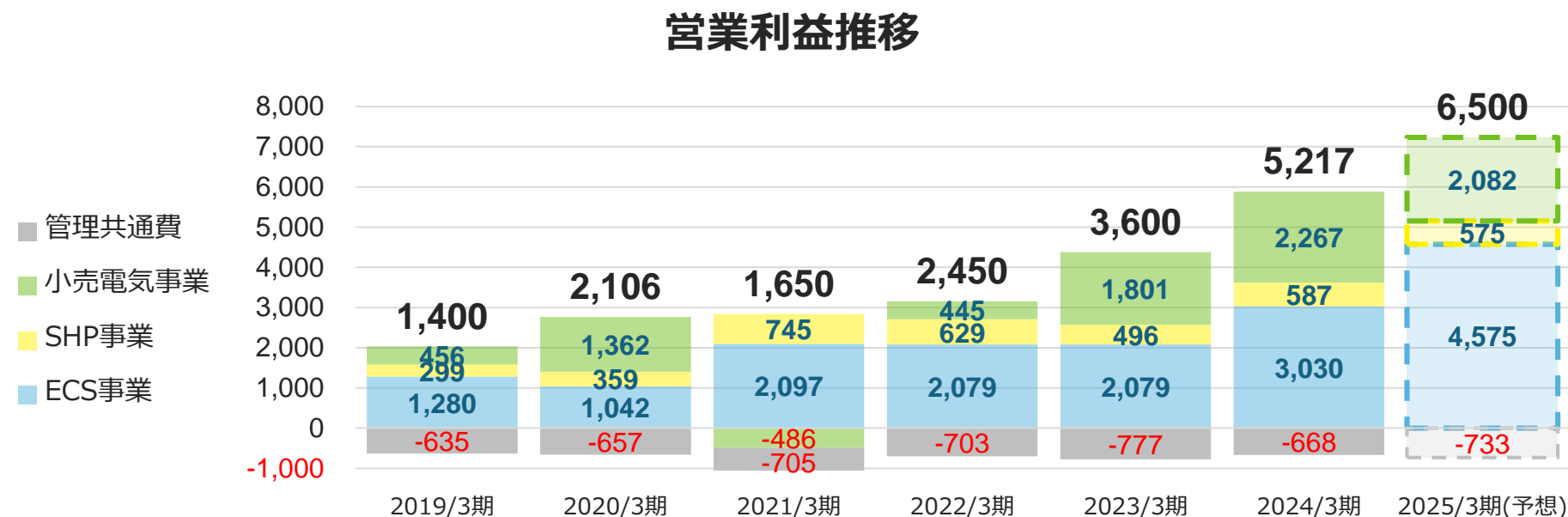
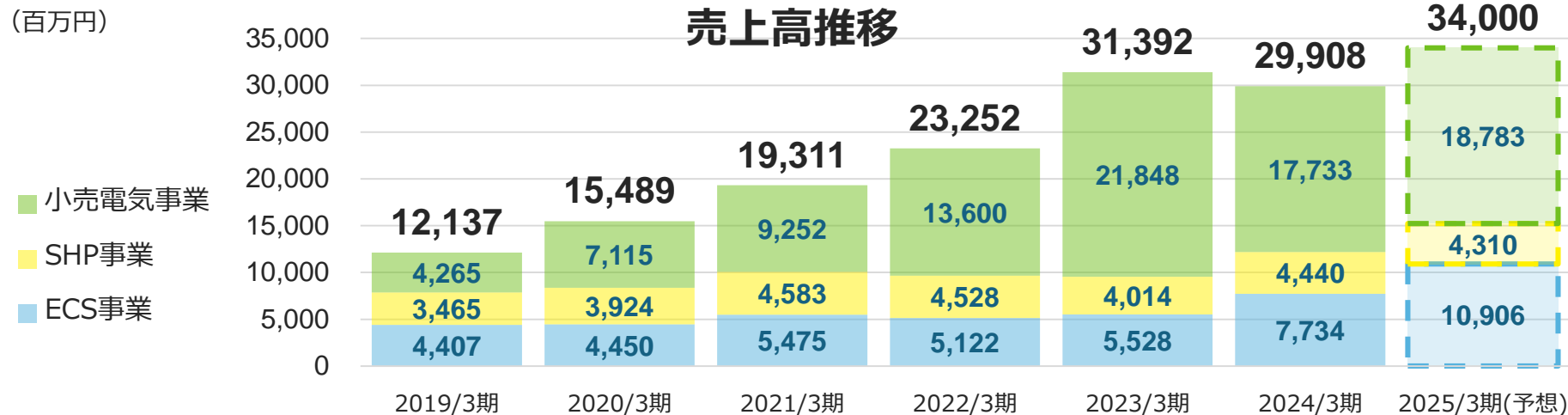
電源調達環境は前期より好転（市場価格の計画は先物価格を参照）

調達種別	24年3月期 期初計画	24年3月期 実績	25年3月期 計画
市場価格	16.30円/kWh ※1	11.50円/kWh	13.71円/kWh ※2
相対電源価格	22.88円/kWh	22.31円/kWh	12.91円/kWh

※1 2023年4月25日時点のTOCOM電力先物価格を当社の調達計画で加重平均

※2 2024年4月30日時点のTOCOM電力先物価格を当社の調達計画で加重平均

連結業績ハイライト（売上高・営業利益）



2025/3期計画

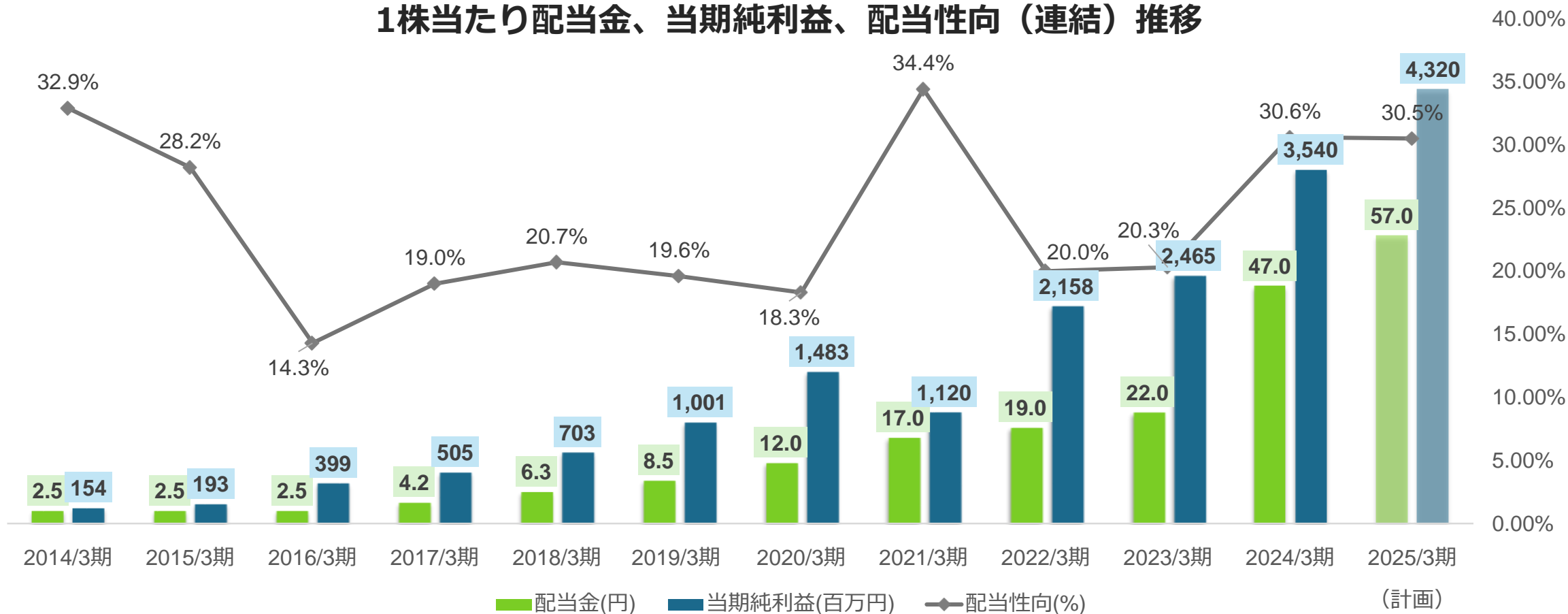
- 売上高 34,000百万円
(前期比+13.7%)
- 営業利益 6,500百万円
(前期比 +24.6%)

過去最高益を更新

2025年3月期配当予想

2024/3期より配当性向30%を目安として配当を実施
 2025/3期の配当予想は中間配当20円+期末配当37円

1株当たり配当金、当期純利益、配当性向（連結）推移



※1株当たり配当金は、2014年1月1日の1：2、2017年10月1日の1：1.5、2018年8月1日の1：2、2020年9月1日の1：2の株式分割の影響を遡及して調整しております。

グリムスのESG

グリムスは、「省エネ・創エネ・蓄エネ」を事業領域として、
環境に優しい商品・サービスを提供することで成長を続け、
豊かで安心して暮らせる社会の構築と持続的な発展に貢献いたします。

Environment

- 省エネ性能の高い商品の販売を通じて、エネルギー効率の改善に貢献いたします。
- 太陽光発電システムや蓄電池など再生可能エネルギー関連商品の販売を通じて、脱炭素社会の構築に貢献いたします。
- 気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の提言への賛同を表明しています。

Society

- 社会のニーズを意識した商品・サービスを提供することで、常に社会と共に発展することを目指します。

Governance

- 取締役会メンバーの1/3以上を社外取締役で構成（うち1名は女性）することで取締役の職務執行の適正性を保持するとともに、コンプライアンス委員会及びリスク管理委員会において経営上の重要な課題の評価と管理を行っています。

関連するSDGs目標



すべての人に感動と喜びを

Filling the World with Inspiration and Joy

変化する環境の中で常に感謝、応援され永続的に社会と共存する企業群を目指します。
情報格差をなくし高い価値の普及に尽力し、豊かで安心して暮らせる社会の構築に寄与します。

経営ビジョン

顧客

お客様が当社グループからのサービスを安心して享受出来る企業群を目指します。

社員

社員が当社に勤めることを誇りに思い、自分の人生を懸けて働ける企業群を目指します。

株主

株主様にとって当社の成長が永続的な喜びとなる企業群を目指します。

社会

常に社会のニーズを敏感に察知し、求められた価値を提供する企業群を目指します。

本資料に関するお問い合わせ

TEL 03-5769-3500

ir@gremz.co.jp

(免責事項)

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、安全性を保障するものではありません。また、特定の商品についての募集・勧誘・営業等を目的としたものではありません。

本資料に記載された見解、見通し、ならびに予測等は、資料作成時点での弊社の判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。予めご了承ください。